

平成29年度 第2回

在宅医療・介護連携推進に関する会議

資料 2

議 事

- (2) 在宅医療・介護や看取りに関する効果的な
啓発・研修活動について

在宅医療・介護や看取りに関する効果的な啓発・研修活動について

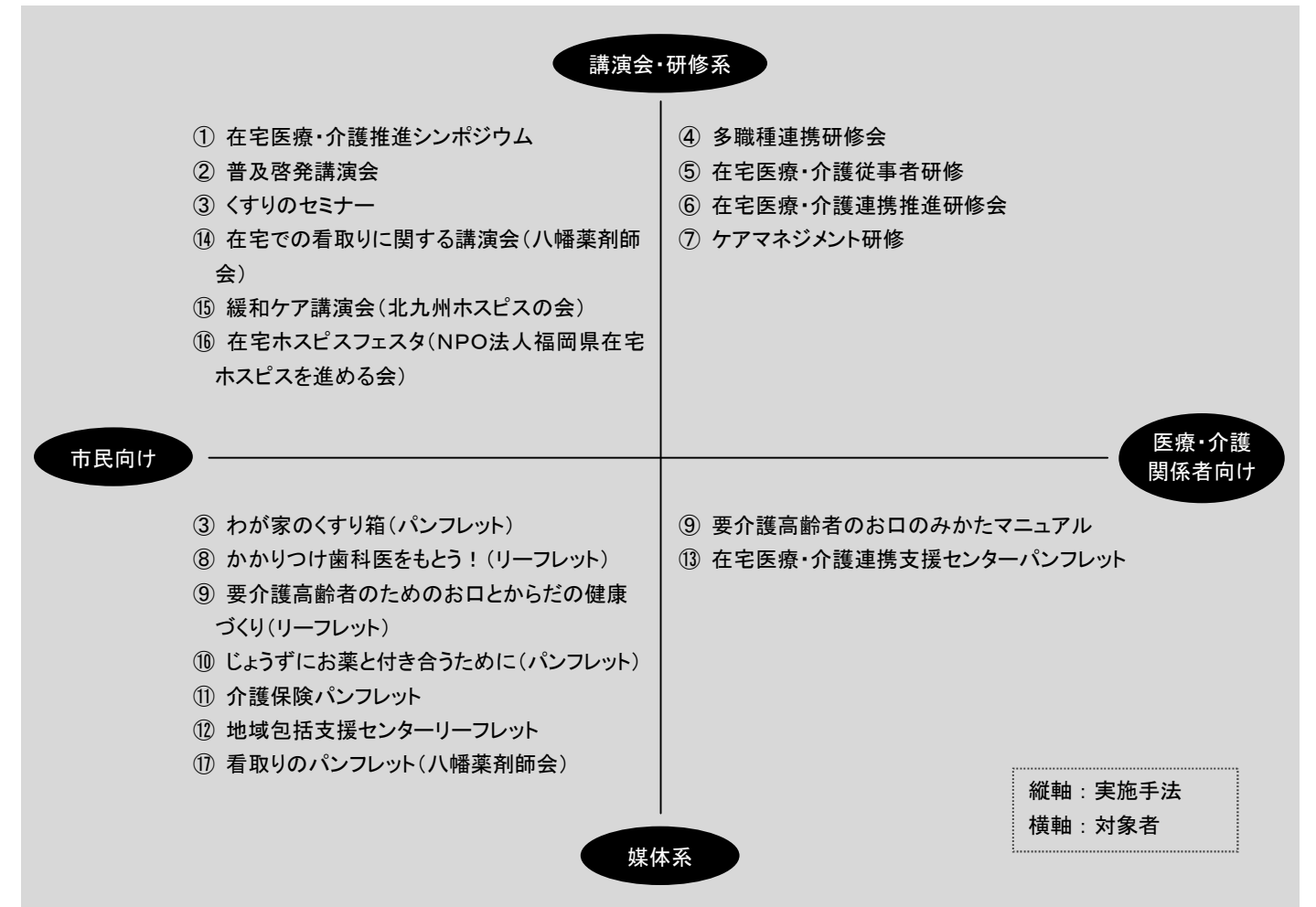
在宅医療・介護連携を推進するためには、医療・介護の専門職だけでなく、サービスの利用主体である一般市民が在宅医療や介護について正しく理解し、本人や家族が在宅での療養が必要になったときに必要なサービスを適切に選択できること、さらには、人生の最終段階のケアの在り方や在宅での看取りについて理解することが重要であることを踏まえ、これらの理解を促進するための本市における効果的な啓発活動について、現状の取組み状況等も踏まえつつ、今後の対応について検討する必要がある。

1 平成28年度の取組み状況

(1) 実施内容

主体	手法	実施項目	内容等
市が実施(直営・委託)	講演会	① 在宅医療・介護推進シンポジウム	市民を対象に「在宅看取り」をテーマにした講演会を開催。(開催回数:1回、参加者数:300人)
	講演会	② 普及啓発講演会	連携支援センター単位で、在宅医療・介護に関するテーマで市民センターなど市民が集まる場所で医師等が講演。(開催回数:32回)
	講演会	③ くすりのセミナー	市民を対象に薬の正しい使用等についての意識の普及やかかりつけ薬剤師の啓発等を目的としたセミナーを開催。また、その際に薬に関するパンフレット(わが家のくすり箱)を配付。(開催回数:15回)
	研修会	④ 多職種連携研修会	連携支援センター単位で、医療・介護の多職種がお互いの業務の現状を知り、顔の見える関係づくりを行うことを目的とした研修会を開催。(開催回数:15回、延べ参加者数:1692人)
	研修会	⑤ 在宅医療・介護従事者研修	連携支援センター単位で、医療・介護関係者を対象にお互いの専門分野への理解を深めるための研修会を開催。(開催回数:14回、延べ参加者数:1009人)
	研修会	⑥ 在宅医療・介護連携推進研修会	医療・介護の関係者を対象に啓発セミナーを開催。(テーマ:在宅医療における薬剤師の役割、開催回数:2回、延べ参加者数:136人)
	研修会	⑦ ケアマネジメント研修	ケアマネジャーを対象に、ケアマネジメント能力の向上を目的とした研修会を各区で開催。(開催回数:39回、延べ参加者数:3708人)
	媒体	⑧ かかりつけ歯科医をもとう!(リーフレット)の配布	かかりつけ歯科医の普及を目的に歯科診療所などでリーフレットを配布。(作成部数:35000部)
	媒体	⑨ ・要介護高齢者のお口のみかたマニュアル ・要介護高齢者のお口とからだの健康づくり(リーフレット)	・ケアマネジャーやホームヘルパー向けに要介護高齢者の口腔ケアに関するマニュアル ・ケアマネジャー等が要介護者に説明するための上記マニュアルの簡易版のリーフレットをホームページ上に掲載。
	媒体	⑩ じょうずにお薬と付き合うために(パンフレット)の配布	市薬剤師会と協同で在宅医療における薬剤師の役割等に関するパンフレットを作成し、市内の薬局や居宅介護支援事業所を通じて市民に周知。(作成部数:5000部)
	媒体	⑪ 介護保険パンフレットの配布	介護保険の制度やサービス内容などを紹介するパンフレットを配布。(要介護認定審査の結果送付の際に同封、区役所や出張所等の市施設に設置)
	媒体	⑫ 地域包括支援センターリーフレットの配布	地域包括支援センターの役割や取組内容等を紹介するリーフレットを配布。(要介護認定審査の結果送付の際に同封、区役所や出張所等の市施設に設置)
	媒体	⑬ 在宅医療・介護連携支援センターパンフレットの配布	連携支援センターの役割や取組内容等を紹介するパンフレットを医療機関、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの医療・介護関係者に配布。
関係団体等が実施	講演会	⑭ 在宅での看取りに関する講演会(八幡薬剤師会)	在宅での看取りの支援に取り組む医師による講演会、在宅に関する実例や、看取りのパンフレットの紹介などを目的とした講演会を開催。(開催回数:2回)
	講演会	⑮ 緩和ケア講演会(北九州ホスピスの会)	在宅ホスピスについての理解を深めることを目的に、医師の講演や経験者を交えた座談会を開催。(開催回数:1回)
	イベント	⑯ 在宅ホスピスフェスタ(NPO法人福岡県在宅ホスピスを進める会)	在宅ホスピスの普及を目的とした啓発イベントを北九州市で初めて開催。(開催回数:1回)
	媒体	⑰ 看取りのパンフレットの作成(八幡薬剤師会)	在宅での看取りにおける薬剤師をはじめとする多職種の関わり方等について解説したパンフレットを作成。

(2) 取組チャート



2 今後の対応に関する課題(論点)

(1) 在宅医療・介護や看取りについて、啓発・研修の取組みが進められてきているが、より効果的な啓発・研修の実施に向け、対象者やテーマについて、どのように考えるか。

① 病院関係者に対する啓発や研修

<テーマの例>

スムーズな在宅移行のために、在宅での医療処置や生活実態、介護保険制度等に関する啓発等。

② 地域の医療・介護関係者に対する啓発や研修

<テーマの例>

- i 服薬管理やリハビリテーション等が必要な患者を薬剤師やリハビリテーション職等に繋げるための地域の医療・介護関係者への啓発等。
- ii 末期がん患者の増加等を見据えた、地域の医療・介護関係者への在宅緩和ケアについての啓発等。
- iii 介護施設の職員に対する、在宅看取りに関する啓発等。
- iv 外来患者の状態悪化時に介護サービスの導入が遅れないための、地域の医療機関等への啓発等。

③ 利用者・介護者たる市民に対する啓発

<テーマの例>

- i かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師の普及についての啓発。(専門職に早期に相談することの重要性)
- ii 退院後に、在宅での支援内容や生活、在宅医療を導入した際の費用やメリット等についての啓発。
- iii 地域の医療・介護関係者が患者情報の共有を行うことの重要性に関する啓発。

(2) また、(1)に加えて、啓発・研修の手法(媒体やイベント)等について、どのように考えるか。